

# 港運・物流関係者が対応に苦慮

## ■ G 20 大阪サミット、道路を大規模規制

主要20カ国・地域首脳会議（G20大阪サミット）が6月28～29日、大阪港・咲洲の展示会場インテックス大阪で開催される。咲洲は、コンテナターミナルが集積するだけでなく、在来船も荷役するライナー埠頭、国際・国内フェリーやRORO船の寄港地で、大阪港の海上輸送の拠点。サミット期間中と前後を含む27～30日の4日間は、高速道路や一般道路で大規模な交通規制が予定されており、大阪港から陸上輸送する貨物に影響が出ないかどうか、関西の港運・物流関係者は対応に頭を悩ませている。

G20サミットの今回の参加国は合計37の国・機関。各国首脳や国際機関トップ、政府関係者、海外プレス、スタッフなど、約3万人が参加する。大阪では受け入れ体制として、自治体や経済団体などで構成する「G20大阪サミット関西推進協力協議会」を組織。その下に「G20大阪サミット推進本部」を置いている。同協議会は昨年12月、大阪港の港湾事業者向けに説明会を開催。今年1月には住民説明会を4回開催した。

説明会では、大阪府警察本部、関西の関係庁部局、高速道路会社などで構成する「G20大阪サミット交通総量抑制連絡会」で、交通総量の削減目標として、平日通常時の50%削減が必要との認識が示されたと報告された。また27～30日の4日間は、高速道路や大阪市内を中心に長時間にわたる交通規制を実施する予定を説明した。

1月28日に開催された推進本部の第2回会合では、大阪府警から交通総量抑制の作成背景など解説。昨年6月に発生した大阪府北部地震で、阪神高速道路を5時間通行止めにしたことで一般道路が大渋滞でマヒしたことを事例として紹介。今回、来日時や離日時、

サミット本番だけでなく2国間会談も多く開催される見込みであり、特に混雑する場所として、サミット会場のインテックス大阪のある大阪南港地区周辺、各国要人が宿泊する予定のホテルが集まる阪神高速道路環状線内や大阪市内中心部、各国要人が来日・離日で使用する関西国際空港周辺の3カ所を挙げる。「これらを結ぶ道路は、テロ対策と、円滑な車列の移動を確保する観点で、大規模かつ頻繁な交通規制を実施する」などと説明された。

高速道路も「環状線を通り止めるには、入口と出口を封鎖して追い上げパトカーで車線を減らすのは手間と時間がかかる。従って通行止めと解除をその都度切り替えていくことは不可能。各国要人の車列が続く場合は、通行止めにしっぱなし、という形になる」と説明。「要人が突発的に移動することも想定すると、2日間だけでなく、27～30日の交通規制エリアは、深夜、早朝を除いた日中はほぼ全面通行止めが見込まれる。極端だが、大阪北部地震であった高速道路通行止めが4日間続くことになる」と話した。

また大阪府警は、高速道路を規制することで一般道が渋滞し、グリッドロック（超渋滞）現象を起こす懸念も示した。「グリッドロックが発生すると、医療関係車両など本当に緊急を要する車両の通行が妨げられかねない」と強調。今回のサミットに対しては、過去5年間の交通量データからシミュレーションし、交通量の50%削減が必要との目標を掲げた。企業に対しては、業務用車両の運行時間や、納品日程の調整、深夜・早朝へのシフトなどを要請。一般の人にはマイカー自粛を呼びかけているという。

高速道路や一般道で大規模な規制が行われるため、物流関係者はその対応に苦慮している。12月の港湾事業者向け説明会では、咲洲の一方通行規制の予定図が配布された。普段なら通れる道路が通れなくなるため、「これではターミナルにコンテナを引き出しに行けない」とある港運会社は困惑。一般道路での検問も多くなるため、トラックの滞留がさらに激しくなるとの見る港運関係者は多い。

そのため、一時的に他港を選択しようという考えも企業で出ている。ある荷主は「近い神戸港を利用することをフォワーダーと話している」という。しかし「神戸港も近いので、仮に要人やその家族が急に京都や神戸に観光に行きたいと言え、突然、想定していない検問や規制が始まる。できることなら関西は避けたい」とあるフォワーダー。そこで候補として挙げるのが名古屋港だ。

「名古屋港を選ぶのは理由がある」と別のフォワーダーは指摘する。昨年9月の台風21号で関西空港は一時閉鎖し、阪神港も荷役機器が稼働できず、物流は大きな損害を被った。「そのとき名古屋港など他港を利用した経験から、今回も一時的に他港で荷役を考えているところもある」と語る。

また咲洲は、国際・国内フェリーの発着地点にもなっている。貨物のトラック車両だけでなく、旅客も国内外から訪れる。マイカーをフェリーに乗せて大阪に来る旅客もいるため、「期間中マイカー自粛というなら、周知をもっと他府県にもやってほしい」とあるフェリー船社は要望する。旅客、貨物の取り扱いが通常通りに行えないことを予想して、「期間中、船をドックに入れることも一案だ」とのフェリー船社もある。